

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 3 LESSON 5 授業例②

M.J. 先生

指導計画表

(全10時間)

時間	学習内容・主な活動
1	L5の学習計画・評価についての説明 ■とびら（世界の家紹介） 関係代名詞 that の導入・練習
2	■GETpart1 の内容理解 語句・表現の導入 関係代名詞 that の言語活動
3	関係代名詞 who,which の導入・練習
4	■GETpart2 の内容理解 語句・表現の導入 関係代名詞 who,which の言語活動
5	関係代名詞目的格の that,which の導入・練習
6	■GETpart3 の内容理解 語句・表現の導入 関係代名詞目的格 that,which の言語活動
7	■USE Read の内容理解 語句・表現の導入 音読練習
8	■USE Read の内容理解 音読練習 Retelling
9~10	ALT が知らない日本の生活様式についての説明文作成

実践例

異文化理解と自国理解を促し、自国文化について「書くこと」をめざした授業

1. 教科書を使うことの意義

「教科書を教えるのではない。教科書で教えるのだ。」と、指導教官から耳が痛くなるほど言われました。NEW CROWNには、多様な教材があふれています。これをどのように使って、どのように指導するかは私たち教師にかかっています。生徒たちが興味をもつように仕掛けをしていかななくてはならないし、その仕掛け次第で言語材料の習得に大きく関わってくると思います。

今回の LESSON には、世界のいろいろな住環境が登場します。GET には日本の文化が、USE には中国とモンゴルの文化が登場します。それらをよく知ることにより、異文化理解と自国理解についても考えさせたいと計画を立てました。その中で、「関係代名詞」という、中学生にとってハードルの高い文法事項の基本をしっかり身に付けさせたいと思いました。

2. 授業の流れ

教科書の本文には、関係代名詞を含む英文が7つ登場しています。関係代名詞自体が難しいので、教科書内容で新出文法を導入するのではなく、生徒たちにとってわかりやすい英文で導入することにしました。そこで、GET の流れは以下のようにしました。

- 1 時間目 ①新出文法の導入
②新出文法の言語活動（話すこと）
- 2 時間目 ①イントロダクション（聞くこと）
②GET の内容理解
③語句・表現の導入

文法事項が関係代名詞で難しいという点から、話すことに関しては、Drill などを使って、言語材料の練習という形で取り組みました。そして、2 時間目の表現活動では、書くことを行いました。

USE Read は、比較的難しい英文が並んでいます。内容としては住環境についての説明が主なので、生徒たちにはわかりやすい内容かと思います。そこで、流れは以下のようにしました。

- 1 時間目①イントロダクション（聞くこと）
②教科書の内容理解（読むこと）
③語句・表現の導入
④音読練習（読むこと）
- 2 時間目①教科書の内容理解（読むこと）
②音読練習
③Retelling（話すこと）

1 時間目は、Pre-Reading や In-Reading を生かしながら、概要を把握することにしました。家のつくりやそこに住む人々の生活を理解できればよいとしました。2 時間目は、さらに読み込むことにより、Check で問われるような代名詞が指す内容などの理解を促しました。それらを踏まえて、音読練習をして、最終的に Retelling を行いました。レベルの違いはあっても、自分の言葉で自分なりに説明できるようにすることが目的です。

まとめとして、「日本の生活様式についての説明文を書く」という活動を取り入れました。

- 1 時間目①ALT の知らない日本の文化探し
②説明文作成のヒント探し
③説明文作成
- 2 時間目①説明文作成
②ALT への説明（読むこと）

まずは、ALT が知らないであろう日本文化を探すためのインタビューを簡単に行います。これは、ALT が知らないことについての説明文を書くためです。さらに、説明文作成のヒントについては、教科書の本文から使えそうな文を選びます。教科書の本文は内容が精選され、手本となる使い方がされているからです。説明文の書き方についても参考になるので、良い見本として活用します。そして、説明文を書いていきます。また、説明文を書くときには必ず関係代名詞の入った文を使うことも条件とします。2 時

間目にも、その作成の時間をとりました。最終的には、書いたものをALTに読んでもらい、自国文化の紹介をします。時間内に終わってしまった生徒には、説明文を読んでALTに説明するという活動も取り入れました。読むこととしたのは、この活動は「書くこと」を意識したものだからです。

3. まとめの活動に活かすための インタラクシオン

このLESSONでは、様々な生活様式を紹介しています。私たちが生きていくためになくてはならない、住環境についてです。生徒たちが何気なく住んでいる「家」には、日本の文化や先人の知恵が数多く反映されています。GETからUSEにかけて、日本、中国とモンゴルの住環境が紹介されています。それらをただ単に読み進めるのではなく、生徒たちの住環境に対するアイデアや発想を引き出すためにインタラクシオンを工夫したいと考えました。LESSON冒頭のとびら部分では、4つの「家」について写真が載っていますが、それ以外にもたくさんの「家」を紹介し、生徒の興味を引き出せるようにしました。

例えば、白川郷の写真を見せて、"Do you know these houses?"から始まり、"Why did the people make these houses?"などと、そこに暮らす人々の考えに迫るような投げかけを行いました。

そして、それぞれのページでこのようなインタラクシオンを行っていくことで、「日本の生活様式の説明文」の作成につなげたいと考えました。単なる説明文にするのではなく、説明するものの背景にはどんな文化や考えが根付いているのかを生徒自身に考えさせたいと思ったからです。そして、インタラクシオンで使っていた英文が、生徒たちの説明文に役立てられるようワークシートに示しました。生徒たちが「聞くこと」を、「書くこと」へつなげていきたいと考えました。

4. 教科書本文から「書くこと」の 表現活動へ

授業の流れの項でも記述しましたが、関係代名詞が言語材料であることから、表現活動は「書くこと」

を目的としたものとししました。そこで、GETの本文やPOINTの例文、USE Readの本文を手本として、表現活動につなげられるようにしました。

GETについては以下のようにしました。

GET Part2の表現活動

Task: 絵を見て、詳しく説明する英文を書こう。

手本となる教科書の英文
p.54 Mr White is a teacher who comes from Australia.

↓

ex) (アニメのキャラクターを見て、)

- ・ This is a robot which comes from 22nd century.
- ・ This is a robot which has a big pocket.

書いた英文にプラスして、まとまりのあるものにした場合は、さらに評価することも伝え活動させました。

9, 10時間目の表現活動には、教科書本文から自分の説明文に使えるような表現を探しました。例としては、以下のような使い方です。

Hashioki (箸置き) についての説明文

手本にする教科書の本文

p.58 These are features which protected the Hakka from enemies.

↓

These are features which give us a quiet time.

学習指導要領の「書くこと」について「文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」という指導事項にもあるとおり、3年生ともなれば一貫性のある文章を書けるように指導したいと考えます。そこで、教科書本文の流れは、生徒たちにとって大変参考になると考えました。教科書本文をしっかりと理解することが「書くこと」へとつながっていくと考えました。

5. 単元のまとめの活動を、ALT への説明をターゲットにした表現活動とする

教材を選ぶ上で学習指導要領では3つの観点を示しています。その中に「外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと」とあります。この LESSON はまさにそのことをとらえたものと考えます。

そこで、ALT との協働により、生徒が進んで英語を使用する場面を設定しようと考えました。ALT の祖国であるジャマイカの住環境について、生徒たちに話をしてもらいます。そこで、教科書の内容以外にも、生徒たちは外国の文化を知ることとなります。そして、生徒たちは自国の文化を ALT に説明することとしました。Mini-project を少し応用した課題となりますし、生徒たちにとって説明文を書くことの「必然性」が高まります。

この活動を通して、生徒たちは自国文化について改めて考えるきっかけを与えられます。そして、異文化について知ることや認めることの大切さも感じられるはずです。自国についての認識を高め、異文化に対する受容的な態度を養うために、ALT との協働は欠かせないものと考えます。